

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0172000283), 法人名 (株式会社道央ケアセンター), 事業所名 (グループホームつつじ(ユニット2)), 所在地 (小樽市朝里川温泉2丁目694番13号), 自己評価作成日 (令和3年6月20日), 評価結果市町村受理日 (令和3年9月3日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1) 事業所は家庭的な雰囲気の中で、利用者様が安心して自立生活を送ることが出来るように支援しています。
2) 今年度は新型コロナウイルスの影響により、外出の自粛をしている中で、室内で行えるレクリエーションを職員と共に考え、手先を使った工作や、体操などを行っております。
3) リビングの窓から広がる大自然の景色と、四季に応じた室内の飾りつけを利用者様と一緒に作り、季節感をあじわっていただけるように努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyvoCd=0172000366-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年7月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 経営の基本事項(環境・施設・設備・機能性等): 自然豊かな温泉街にあって、居住環境を整えており、介護設備等の利便性・機能性も良い。利用者本位の運営理念も素晴らしい。
2) 職員の介護姿勢・態度等: 職員は事業理念を真摯に受け止め、利用者本位の生活に添い、その多様な生活の理解に努めて、相互に資質向上に努めた支援をしている。
3) 家族等の介護への好感度: 家族は、コロナ禍の最中にあって、来所が制限されることもあるが、通例の「おたより」の号外連絡を得るなど、真摯な職員の対応に好感を示している。
4) 運営推進会議開催状況: 会議は職員間での計画・実施・検討協議を余儀なくされている。協議結果は会議関係者に配布され、その意向を反映した運営に努めている。
5) 地域等との業務上の関係性: 通例ではボランティア導入、近隣学校との相互交流等に努めている。医療・防災官署・行政機関、同系事業との連携で、関係の維持強化に努めている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は全職員の目に付く場所に掲示し、更に定期的に社内研修を行うことで職員の理解を高めています。	運営理念は利用者本位の「職員人材を整え、寛ぎの環境を整え、残る力を見出し、誇りある支援」で、好循環な介護環境づくりを挙げる。職員は真摯に受け止め、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	例年は、小学校の行事に招かれたり、ホーム主催のお祭りにご参加頂いたりして交流深めて参りましたが、今年度はコロナウイルス感染症の為に交流禁止になりました。	地域に開かれた事業運営を目指して、ボランティアの導入や近隣小学校との交流・連携に努め、相互行事の交流を図り、利用者の楽しみとなってきた。今年はコロナ禍で自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、地域交流の際に認知症についてお話をしましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、機会がありませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、職員、利用者様と、評価結果やホームでの取り組みなどについて話し合い、検討内容をご家族や地域包括センターなどに報告し、ご意見を頂き、それを基にサービスの見直しをしています。	会議関係者の集まりは自粛しているが、内部組織での事業計画・執行・見直し等の協議を定例に重ねている。その検討結果を家族や包括支援センター等に報告するとともに、各位の意向を反映出来るよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことがあれば介護保険課などに、電話やFAXで相談し、確認しています。	行政との連携については、定例の業務状況報告や事故報告等を通じた情報交換を重ね、コロナ禍の最中の運営について、必要な協議と指導を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束防止推進委員会を行い、事例検討や研修内容について話し合い、拘束しないケアに取り組んでいます。	身体拘束防止推進委員会を定例に開催。指定基準に応じた介護の基本に係る課題を検討し、協議結果を定例職員会議等で報告して、職員の資質向上に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待のニュースを職員と見て話し合ったり、定期的に社内研修で虐待について学び不適切なケアの防止に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に社内研修を行い、高齢者の権利擁護や日常生活支援事業や成年後見人制度についての理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、ご家族やご利用者が納得されるまで説明を行い、契約書等の改定の際は、書面や口頭にて不安や疑問点がないか十分に話し合ってます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪の際や、電話、手紙などでご意見ご要望を伺い、それらを職員間で共有し、ケアの見直しに役立っています。また、年に4回お便りや二ヶ月毎に近況報告を発行させて頂いております。	通例では家族の来訪時に、親しく利用者の生活状況等を報告・協議して、介護に活かしている。コロナ禍での抑制・自粛もあり、従来のお便りによる報告を重視して、家族意向の反映に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやフロア会議の際に、職員の意見や提案を聞き入れより良いホーム運営を目指しています。	日常の申し送りの徹底や、定例の職員会議を、職員の意見・介護の視点等を相互に共有する機会として、職員の資質向上に活かしている。また、必要に応じて、個別の意向把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々にステップアップを目指し、前向きに働けるような環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の持っている力や、経験などを把握し、働きながらスキルアップしてもらえよう助言している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は相互訪問や勉強会は、新型コロナウイルス感染症予防の為、中止となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人にお会いし、不安な事や要望などを確認しています。その上で、安心して快適な生活を送って頂けるように支援します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームの見学を勧めたり、ご家族様とお話する機会を作り、不安な事や要望などをお聞きし、信頼関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様のお話を聞くことで、必要とする支援があれば出来る限り、柔軟なサービス対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室の掃除や食事の準備や後片付け等、お手伝いして頂いております。利用者様と一緒に考え、意見を出し合いながらより良い関係を築けるように心がけています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪や電話の際に、ご本人の日常の様子を伝えたり、ご家族からのご意見を聞き入れ、一緒に支えあえる関係性を築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後もご本人の通い慣れた病院を継続する等、馴染みの関係性を継続していただけるよう支援しています。	通例では、来訪時等の家族との関係を重視した支援をすると共に、家族の協力を得た馴染みのかかりつけ医への通院等にも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立しないように、気の合った仲間作りのお手伝いをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで築いてきた関係を大切に、退所後もホームでの生活の様子を関係機関に伝えたり、ご家族様にはいつでも相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の思いや暮らし方のご希望を伺い、職員と情報を共有し、少しでもご希望に添えるように支援しています。	入所以来のアセスメント記録を継続して観察すると共に、利用者の生活に添い、[観て、聴いて、尋ねて、応える]介護姿勢で臨み、個々の意向等の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご本人様やご家族様から生活歴などのお話を伺っています。また、サービス利用関係機関から必要な情報を頂き、入所後のケアに役立てております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の心身状態を職員間で申し送り、把握することで、日々の暮らしの中で少しでも出来ることを見つけていけるように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様やご家族様、必要な関係者の意見を聞き、モニタリングや担当者会議などで話し合い、適切なサービスを提供できるように介護計画を作成しています。	新たな介護計画にあたっては、個々のモニタリング経過を検討協議するとともに、各職位の専門的意見を反映して、利用者の生活の最適化を目指している。家族の意向も含み、了解を得て、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には利用者様の暮らしの様子や具体的な言動を個々に記録し、定期的に担当者会議で話し合い、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向や、ご家族の都合により、協力医療機関以外の通院の付き添いなど対応したりと柔軟な支援に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会やボランティアの方と一緒に、ハロウィンパーティーやクリスマス会を行ったりと交流を深めて参りましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の為、ほぼ中止となりました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族に主治医を決めていただき、受診時には状態などを報告、相談する事で適切な医療が受けられるよう関係性を築いています。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切にしよう努めている。通院は職員が同行しており、受診結果を職員間で共有すると共に、家族にも伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化や心配事がある場合、事業所内に看護師がいないため、協力病院の看護師に相談したり、助言を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族や病院関係者と連絡を取り合いながら、利用者様に関する情報を提供し、出来るだけ早期退院していただけるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度した場合や終末期については、入居時に説明させて頂いています。状態が悪化した場合は、ご本人様、ご家族様と話し合い、相応な支援を受けられるようにしています。	重度化・終末期に係る事項は、入所の際にその対応指針を示し、同意を得ると共に、心身の変化に合わせて、協力医療機関・家族等、関係者との協議を重ね、最善の対応となるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修を行い、事故発生時の応急処置や急変時の対応を学び、適切な対応が出来るようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	、定期的に日中、夜間の火災を想定した避難訓練を、同敷地内のグループホームと連携し行っています。	防災対策は関係官署の指導・助言を得て、想定災害対応に努めている。内部組織の役割、施設設備の点検、同法人の事業所間の連携等を図っている。また、災害備蓄品にも留意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、お一人、お一人の人格を尊重し、自尊心を損ねない声掛け、対応を心掛けています。	理念に示す、「利用者への生活支援の好循環」を念頭に、職員は利用者個々の思いに添い、人格や個性を損なうことのないよう、真摯な介護に専念している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定が出来るように、話しやすい環境作りを心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は決まっていますが、利用者様、個人個人のペースに合った生活が送れるよう支援しています。状況によっては、予定や日課を変更しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう職員が一緒に選んだり、ご本人の希望に合わせ、髪の毛のセット、爪切り、髭剃りなど行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事を楽しんでいただけるような、見た目や味付けを工夫したり、また食べやすい大きさにして提供しています。	食事は最も楽しみある時として、個々の心身の状況・嗜好等に配慮している。メニューの多彩さ、行事・季節の食材や、個々のお手伝いへの心配りがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人、食事量や水分量を介護記録に記録し、把握します。不足している場合は、ご本人の摂取しやすい味や形にして、提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後お声掛けをし歯磨きをして頂いています。ご自分で出来ない方は介助をします。夜間は毎日洗浄剤で義歯を消毒しています。異常が見られた場合は、歯科医に相談しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	サポートが必要な方は、出来る限りトイレで排泄が出来るよう、定期的にトイレへ誘導しています。	排泄は個々の自立を基本(トイレ排泄)に支援している。介護度は中度者が多く。職員は個々の状況を共有して、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に体操をしたり、乳製品を提供したりして、自然に排便出来るように支援しています。便秘の方は、頻度や状態、量などを記録し、主治医に相談し下剤の処方をして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や気分に合わせて入浴をお誘いしています。入りたくない時があれば声掛けの工夫をしたり、時間や日にちを改めたりしています。	毎日お湯はりをを行い、楽しく・安らぎの時として、個々の心身の状況・当日の気分に合わせてながら、時に日時の変更等、心配り多い支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は出来るだけ活動を促し、夜はゆっくり休んでいただけるよう支援しています。睡眠状態の確認を行うため、定期的に巡視を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服薬カードにて、服用方法や副作用の把握をしています。服用前には、職員2名で名前や日付を読み合わせし、服用の際には飲み込むまで見守り、確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のその日の気分によって、洗濯物やテーブル拭きなどを、手伝っていただいています。またご本人様が好まれている新聞を毎日読んでいただいたり、コーヒー好きな方にはご本人の好みに合わせて提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、今年度はご家族様や地域の人たちと出掛けることはありませんが、短時間外へ出て景色を見たり、敷地内を散歩し、気分転換をはかっていただいております。	コロナ禍にあって、家族等との外出協力が困難になっているが、近隣の四季の自然の変化、中庭の野菜・花畑を愛で、気分転換の時を味わえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは金銭管理を行っていない為、現在入所の利用者様は現金を所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご友人とのお電話をとりついたり、ご家族からの手紙が送られてきた際には、本人にお渡しして読まれた後、ご本人と一緒にお礼の電話をしたりしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内を季節感のある飾り付けをしています。フロア内やトイレは毎日掃除・消毒をし清潔を保つのはもちろんの事、湿度や温度も快適に過ごして頂けるよう配慮しています。	居間、食堂を囲んで居室があり、介護機能設備の利便性と共に、寛ぎの環境作りとして、季節や行事の飾り付けがあり、居住環境の温・湿・採光にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで、仲の良い方同士がテレビを観て談笑したり、自室でゆっくりと過ごされたりと自由に過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人様、ご家族様からじっくりお話を聞き、居室には使い慣れたものや好みのものを持ち込んで頂き、落ち着いて安心して過ごせる環境作りを心掛けています。	個々の居室には、家族の協力を得ながら、馴染みの家具・備品等が持ち込まれている。職員は安全面に配慮しながら、自室さながらの居心地良い部屋作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ご自身で、出来る限り移動していただけるよう、各居室に名前プレートをはり、トイレや洗面所には大きめの文字で立体プレートを付けています。		